

## 1.2 耐震診断概要

NO. 189

### 1.2.1 耐震診断概要

診断次数	第2次診断			
適用図書	2001年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準			
現地調査	紛失図書復元	無		
	建物被災履歴	有 (平成13年芸予地震に遭遇しているが、構造体への目立った被害はなかった。)		
	図書との相違	無		
	ひび割れ調査	有 (壁、スラブ等にひび割れが見受けられた。)		
	レベル測定	有 (有害な傾斜は確認されなかった。)		
	寸法実測調査	有 ( )		
	配筋状況調査	有 (はつり調査により柱主筋、帯筋の確認を行った結果、設計図書に相違なかった。)		
	基礎状況調査	無		
諸数値の設定	$I_{so}$	0.7	直接指定	:設定者(発注者:徳島県)
	$I_s$	E <sub>o</sub> ・SD・T		
	$E_s$	0.6		
	$Z$	1.0		
	$G$	1.0		
	$U$	1.0		
	$S_D$	基準式		
	$T$	基準式		
	外力分布補正係数	(n+1)/(n+i) : 建物階数 3 階		
		1階 1.00	2階 0.80	3階 0.67
終局限界累積強度	CTU・SD $\geq$ 0.3・Z・G・U			
モデル化および計算手法	節点振り分け法	無		
	仮想仕事法	有 (回転壁等の検討。)		
	荷重増分法	無		
	ゾーニング	無		
	内法寸法位置	フェース (壁を考慮したフェース位置とする。)		
	壁解析用外力分布	(n+1)/(n+i)の逆数 (外力分布補正係数の逆数をそのまま採用する。)		
	回転壁	考慮 (基礎の浮き上がり、沈み込みを考慮。)		
	下階壁抜け	考慮 (全体崩壊、層崩壊を考慮。)		
	地震時軸力変動	考慮 (回転壁等の検討時。)		
	柱多段配筋	考慮 (基準式を採用。)		
	直交壁	無視 (柱耐力検討時、回転壁等検討時は無視する。)		
	境界梁	考慮 (回転壁検討時に考慮する。)		
	直交梁	無視 ( )		
	スラブ筋	考慮 (回転壁等検討時における境界梁耐力算出には考慮する。)		
	カットオフ筋	無視 ( )		
	部分スリット付き梁	無		
	腰壁・垂れ壁付梁	考慮 (回転壁等検討時における境界梁耐力算出には考慮する。)		
第2種構造要素	直交壁考慮	軸力支持能力NR		
	残存軸耐力式N <sub>r</sub>			
第3次診断補正	(6)式により補正無			
使用プログラム (ソフト名・バージョン)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)構造システム BUS-3 Ver. 3.0</li> <li>・(株)構造システム DOC-RC/SRC Ver. 4.0</li> <li>・(社)広島県建築士事務所協会 建築物耐震診断等評価委員会編集「Hi-soft Ver. 2.0」</li> </ul>				
その他特記すべき診断概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地盤については診断の対象外とする。</li> </ul>				